



ロゴセラピーのレッスン

12月23日予定

12の知恵

パム・ロイ、モイラ・フンメル「共著」、赤坂桃子「訳」

自分の精神をケアするための練習——

ヴィクトール・フランクルが創始したロゴセラピーは、人間を「肉体」「心理」「精神」の総合と捉え、特に、自身自身から距離をとって人生について考え、目標と方向を選ぶ自由な「精神」の次元を重んじる。精神を粗末に扱っていると心身の健康がむしろまされてしまう。

著者の二人は、フランクルの膨大な著作の中から21の珠玉の短文を選び出し、人生において大切な21のテーマに沿って、一人一人が自らの精神をケアするための手ほどきをしてくれる。

◆小B6判・112頁・定価1650円

著者 共著者パム・ロイ (Pam Roy) とモイラ・フンメル (Moira Hummel) は、アメリカ・ヴィクトール・フランクル研究所の共同設立者。ロイは市場調査ビジネス、フンメルは弁護士として働くかたわら、里子支援やホームレス支援の非営利組織で活動してきた。



【目次から】(扱われている21のテーマ)

- | | |
|--------|-------|
| 目的 | 自由 |
| 生きる | お金 |
| 幸福 | 空虚さ |
| 反応 | 責任 |
| 寛容 | 人間の精神 |
| 共同体 | 緊張 |
| 自己超越 | 孤独 |
| 自分が変わる | 苦悩 |
| ユーモア | 仕事 |
| ユニークさ | 選択 |
| 人間性 | |

● 10月刊行

聖書学と信仰者

信仰者は批判的聖書学とどう向き合うべきか

ブレットラー、ハリントン、エンス共著／魯恩碩訳 ◆A5判・定価 2970円

ユダヤ教、カトリック、プロテスタント3人の聖書学者が、旧約聖書を批判的かつ信仰的な観点からいかに読むかをめぐり、古代以来の聖書解釈の歴史から最新の釈義理論までを参照しつつ白熱の討議を行う。



● 9月刊行

現代エキュメニカル運動史

ジェンダー正義の視点から読み解く

藤原佐和子著

◆A5判・定価 3740円

「エキュメニカルの冬」をもたらしたとされる女性の按手の是非やセクシュアリティに関わる問題群はいかなる論争と実践をもたらしたか。多くの取り組みと議論を一次資料を通して丹念に辿った新たな歴史像。



● 8月刊行

ロゴセラピー

人間への限りない畏敬に基づく心理療法

エリーザベト・ルーカス著／草野智洋・徳永繁子訳 ◆A5判・定価 3300円

基礎概念を説明したのち、「生きる意味」の発見を支援する実践技法を懇切に解説。医療と心理のみならず、教師や宗教者など人と深く関わる全ての者にとって豊かな示唆に富む。著者は فرانクル の高弟。



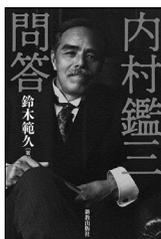
● 7月刊行

内村鑑三問答

鈴木範久著

◆四六判・定価 2970円

70年にわたり内村と向き合い続け、記念碑的な『内村鑑三日録』全12巻を世に問うなど、終始内村研究を主導してきた著者が、「なぜ最初の結婚は破綻したのか」「新島襄から離れたわけは」「天皇をどうみたか」など、更なる解明を要する24の「謎」を取り上げ、その人格と思想に迫る。



デイトリヒ・ボンヘッファー 著／宮田光雄 監訳
倫理 DBW版・新訳

ボンヘッファーがライフワークとして取り組み、ナチによる逮捕と刑死によって
 ついに未完に終わった倫理学。長らく森野善右衛門訳『現代キリスト教倫理』
 として読み継がれてきたが、ここに新版ボンヘッファー全集第6巻（DBW6）
 に基づく全く新たな訳が完成。ナチの監視下に慌ただしく書き継がれた草
 稿を綿密な判読と徹底的な校閲により再構成し、膨大な脚注を付した本
 書は、著者の構想を余すところなく明かにし、キリスト教倫理の可能性を
 鮮やかに指し示す。
 四六判・予価9900円

吉田隆、長谷部弘、弓矢健児、豊川慎著

平和の福音に生きる教会の宣言

日本キリスト改革派教会「平和宣言」と解説

2023年の改革派教会の大会で採択された宣言は、今日と将来の教会がこ
 の世に対して果たすべき責任を、平和をつくる。という視点から積極的に
 展開する。本書は、この宣言が日本の教界で広く共有され、学びの素材と
 されるために、本文と共に懇切な解説を施した。小B6判・定価9900円

山本賢蔵 著

静寂者ジャンヌ

ギユイヨン夫人または抵抗の神秘主義 「仮題」

絶対君主ルイ十四世の時代を生きた一人の女性。彼女は「異端の女性神秘
 家」として歴史の闇に葬り去られてきたが、その生涯を丹念に追うと、男
 性支配のミニニテ社会の中で自己を貫き通した、鮮烈な抵抗の生き様が浮
 かび上がる。原典と周辺資料を丹念に読み抜いた、日本で初となるギユイ
 ヨン夫人の本格評伝。
 四六判・予価4400円

● 11月に出版の本と雑誌

善き力 ボンヘッファーを描き出す12章

イルゼ・テート著、岡野彩子訳



著者は、夫H・E・テートと共に
 新版ボンヘッファー全集（DBW）
 の編集に絶大な貢献を果たし、ボ
 ンヘッファーのテキストに誰より
 も通暁する碩学である。本書は、
 著者が2000年代初頭に、主
 として一般市民を対象に語った講演を収録する。様々
 なテーマを切り口に、ボンヘッファーの神学思想と信
 仰世界の豊かさが生き生きと描き出される。とりわけ、
 ヒトラー暗殺計画に加担した彼のキリスト服従、罪責、
 責任をめぐる諸考察は圧巻。

◆四六判・定価3960円

福音と世界

◆定価6600円

12月号 特集II 待ち望む——待ちつつ急ぎつつ

寄稿者：北 博、山口希生、大宮有博

高橋優子、許 伯基 金井 創

追悼 荒井献先生……月本昭男

リレー連載 『荊冠の神学』を読む2……青木理恵子

連載 インタビューシリーズ 女たちの闘い、田島卓、今高

義也、長尾優、真下弥生、山崎ランサム和彦

販売部から

出版通信9月号では、2021年に開設した新しいウェブショップについて書きました(ぜひ検索サイトで「新教出版社 STORES」と検索をかけてみてください)。江戸川橋の新社屋に移転してから4ヶ月近くが経ち、新しい倉庫体制のもとで、今後ウェブショップに出品できるように月刊誌『福音と世界』の古いバックナンバーに目を通す機会が増えています。70年代にはユルゲン・モルトマンと廣松渉が弊誌上で(シンポジウムの記録というかたちで)対談するなど、護教的態度を廃し、キリスト教と現代世界の相互批判的接点を常に探してきたその軌跡をどう新しい読者に届け、伝えていくことができるのか。販売部に所属しつつ『福音と世界』の特集の企画立案にも一部参加している身として、2つの立ち位置から考えています。なお、ウェブショップでは2019年までのバックナンバーを現在出品していますが、今後は1年ずつ年を遡っていきながらラインナップを増やしていきます。既にご利用いただいているお客様も、そうでないお客様も、ぜひ今後とも足を運んでいただけましたら幸いです。(隅田)

出版部から

『若者の読書離れ』というウソ(平凡社新書)の著者、飯田一史さんの講演を聴きました。演題は「読書離れ」の真相 データが示す日本の読書」。飯田さんの話を大胆に要約すると、決して「読書離れ」は起きていない、起きているのは「購読離れ」だ、原因は雑誌の衰退である、そのため雑誌の売上で何とか存続してきた書店が減少し、雑誌を買いに書店に来て、ついでに本を買っていた読者が購読機会を失っているのだ、という構図でした。いや原因はスマホだ、スマホに時間を取られて「読書離れ」が起きているのでは、という質問はハッキリ否定されました。それは私の実感とは異なります。己を顧みると、以前は通勤電車でカバンから本を取り出していたのに、いまや真っ先に胸ポケットからスマホを取り出す自分がいるからです。飯田さんは、スマホをいじっている人たちは電子書籍を読んでいるかもしれないとおっしゃいましたが、私は何を見ているかというところ……。理由はいずれにせよ「購読離れ」は滔々と進んでいます。出版社ができることは、煎じ詰めれば、購読したくなる魅力的な本を知恵を絞って企画し続けることしかないようです。(小林)

福音と世界

2025年
1

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料(送料共)8760円

特集・絵本から見る多様な世界

多様性という視点で考える

——『扉』としての絵本 —— 佐藤潤一

現在、絵本が子どもたちの未来にできること —— 吉井康文

ロングセラー絵本に秘められた普遍的な力 —— 川辺陽子

——書店員の立場から —— 藤本朝巳

学ぶマイノリティの痛み —— 沢 知恵

せかいのひととひととわたし —— 吉田 新

多様性と共同体 —— パウロからの問いと 今日絵本 —— 吉田 新

【書評】ハンス・キング著『イエス』……大友 浩

【リレー連載】『荊冠の神学』を読み直す3 ……堀江有里

【好評連載】

◆ 女たちの闘い 声をつむぐ、織りなす8 絹川久子さん

◆ 証言としての旧約聖書 9 ……田島 卓

◆ 八木重吉の聖書 18 ……今高義也

◆ 私は告白する、私の神を 22 ……長尾 優

◆ 「日本的キリスト教」を読む 33 ……山口陽一

◆ 新約釈義 ルカ福音書 37 ……山崎ランサム和彦